

Title	科学技術、この20年の邂逅と今後の展望(2)((政策研究大学院大学と共催)「科学技術、この20年の邂逅と今後の展望」, 第20回年次学術大会講演要旨集I)
Author(s)	石田, 寛人
Citation	年次学術大会講演要旨集, 20: 516-517
Issue Date	2005-10-22
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5992
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	パネルディスカッション

パネルディスカッション

科学技術、この20年の邂逅と今後の展望

石田 寛人（金沢学院大学学長）

1. 科学技術はいかなる役割を果たしたか

膨大な知識の体系を整え、人間の未来に展望を与えた。

新しい技術を世に出して、経済の発展に寄与した。

「世界の進歩発展の原動力」

2. 科学技術に何が望まれているか

物質的な充足感と精神的な飢餓感の中で、

科学技術に何を求めるか。

安寧な生活の保障と限りなき前進。

3. 新しい技術はいかに生まれ育つか（イノベーションの構造）

直線的ではない。

スパイラル構造か。

「死の谷」「ダーウインの海」

4. 民と官との役割はいかに分担されるか

民と官の研究開発投資の役割

科学技術行政の果たすべき役割

科学技術振興方策の展開、科学技術的分野の規制、科学技術的分野の事業の実施（大型研究開発、基礎的な研究開発の実施、最先端分野の施設設備の建設と運転、国土整備、気象環境、医療農業など）。複雑であり、多様である。

5. 戦後の行政環境における科学技術はいかなるものであったか

アメリカという巨大な友人の存在

体制の整備と改善、独任制機関と合議制機関の相互補完関係、行政における責任

官庁における事務系職員と技術系職員

官庁内部のことに関する理解の困難性。民間企業にとっても大学人にとっても。

6. 「反知識主義」をいかに受け止めるか。

世界的な傾向。

細かいことは分からなくてよい。バランスある判断が重要で、技術的に詳細な知識は不要。
戦後の文科系理科系の人事制度をいかに克服するか。ポストの流動化。

7. 新しい理科系行政官像をいかに確立するか。

基礎知識と学校教育、キャリアパス、再訓練、急激に変化する要請に対する対応
その最適な組織の模索

8. 長期的な自然観をいかに身につけるか。

新しい技術として大きく伸びるものの育成

21 世紀以降をいかに生きていくか。

将来のことはわからない。

①だから長期的な見通しを付けるような努力は効果が薄い。

②だから長期的な見通しが少しでも得られるように努力すべし。

「知の体系」の飛躍的充実 「人類はあまりにも僅かなことしか知らない」

「知の体系」の充実と新技術創成のための活動がいかに魅力に富んでいるか。